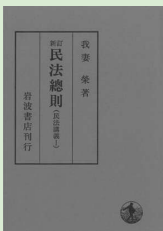


# READING \* LIST

## これだけは読んでおきたい

### 人文学部 名島利喜先生おすすめ!



**我妻 榮著「民法總則」** 岩波書店、1965 [324/W 14/1]

真に優れた法想的思考が基礎にある古典的な名著です。バランスのとれた利益衡量の仕方と結論を導く論理が、随所にちりばめられています。刊行から40年経ったので、内容はかなり古いものだし、難しくて読み通すには歯ごたえがありすぎるかも知れません。それでも、じっくり腰を据えて少し読み込んでいくと、論理的な思考の訓練になるはず。気の向くままに頁をめくるだけでも、学問という営みに触れることができるでしょう。

### 教育学部 山根崇次先生おすすめ!



**山根崇次ほか編著「個の育成をめざす21世紀の生活科・社会科・総合の授業づくり」** 黎明書房、2002 [375.3/Ko78]

本書は、社会科を中心とした授業づくりの方法と、授業実践の記録、校内研修における授業研究・分析の方法を示したものである。授業づくりの方法を述べるに当たっては、どんな社会科の授業が目標とすべき優れた授業なのかという要件を明らかにしておく必要があるが、本書ではその要件を抽象的にのみでなく具体的に示している。そして、それらの要件にあった授業の実例を学年別、分野別に、かなり詳細に紹介している。じっくりと読んで欲しい本である。

### 医学部 中野正孝先生おすすめ!



**中野正孝ほか訳「論文が読める!早わかり統計学：臨床研究データを理解するためのエッセンス」** メディカル・サイエンス・インターナショナル、2005 [490.7/N 96]

エビデンスを重要視する研究の場合、統計的記述は避けられませんが、統計学が好きで、得意であるという人は多くはないでしょう。さらに、自らが統計的に研究を行わないまでも、統計的にまとめられた文献を読むことが必要になります。原著者の序文にありますように、本書は統計学の入門書を意図したものではありません。つまり、本書の大きな目標は、計算に強くなり、統計的な論文が書けるようになるということではなく、統計学を使った論文を批判的に読めるようになるということです。

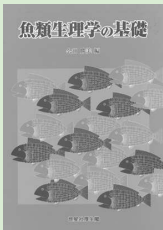
### 工学部 清水 真先生おすすめ!



**日本化学会編「化学ってそういうこと!?夢が広がる分子の世界」** 化学同人、2003 [430/Ka16]

この本は化学のことを良く理解し、好きになってもらいたいという願いを込めて、化学とはどんな学問か、化学の基礎知識、身の回りの現象やさまざまな化学製品、環境や資源・エネルギー、生命と化学、未来の化学について、写真や図を豊富に用いてかなり平易に説明してあります。また、ノーベル化学賞受賞者からのメッセージも載せられており、これから化学を理解し育てていこうと考えている人への入門書として最適な1冊です。

### 生物資源学部 吉岡 基先生おすすめ!



**会田勝美編「魚類生理学の基礎」** 恒星社厚生閣、2002 [487.51/G 99]

本書は、1977年に出版された「魚類生理学概論」にかわる魚類生理学の新たな教科書・参考書として、2002年に発行された。25年の時間を経て出版された本書には、この間に著しく進展した魚類生理学に関する見解が、総論、神経系、呼吸・循環、感覚、遊泳、内分泌、生殖、変態、消化・吸収、代謝、浸透圧調節・回遊、生体防御の12の章に分けてわかりやすく解説されている。図や写真、文献なども多い。魚の体内でおきていることを体系的に学べる専門書としておすすめの書である。

### 共通教育 尾西康充先生おすすめ!



**北村透谷研究会編「北村透谷とは何か」** 笠間書院、2004 [910.26/Ki 68]

明治文学を代表する作家北村透谷は、文明開化を急ぐ近代日本を批判した。「漫罵」という評論の冒頭、築地居留地に在住する外国人に欧化政策の進展を示すために急造した銀座煉瓦街が描かれている。透谷が「移動の時代」と呼んだ明治時代の問題をとらえてほしい。

※全て図書館開架(1階の学生用図書の本棚)に番号順に置いてあります。